



箱根写真美術館
Hakone museum of photography

在日フランス大使館 後援

Les Trois Temps (レ・トロワ・タン)

フランスと関わりの深い日本人アーティスト三人のそれぞれのパリ、
それぞれの作品展を[三つの時 Les Trois Temps]と題し、
2週間ずつ連続で開催致します。

—Exposition 1—

1970年代のパリを撮った作者自身によるゼラチンシルバープリント作品を展示

2011年4月27日(水)–5月9日(月)

PARIS RETROSPECTIVE DES ANNEES 70 小山夏比古写真展 –70年代パリ回想–

作者が過ごした1970年代半ばのパリ。作者は、パリ国立高等美術学校でセザールに彫刻を学ぶ傍ら、生活の糧を求めてアルバイトを転々、ペンタックスSVを片手にパリの街をさまよった。

展示作品は、作者がパリに滞在した中での、わずか3年間に撮られた記録である。

若い頃パリに暮らした作家、ヘミングウェイがその著「移動祝祭日」で書いているように、作者は60歳を過ぎて箱根に暮らし、人生の残りが見え始めても、やはりパリが忘れられない。

忘れられないどころか、年とともにパリへの思いが強くなる。この展覧会は作者のそうした思いを込めた、パリ、あるいはフランスへの賛歌である。

—Exposition 2—

2000年から約10年間かけて撮りためたフランス、パリのモノクロ風景写真を展示

2011年5月11日(水)–5月30日(月)

遠藤桂 写真展—時の記憶—

作者は2000年に初めてフランスを訪れてから、縁あって度々足を運ぶようになった。

2003年に作者が撮り続けている日本の美景・富士山の作品をパリで展示する機会を得、以来継続的に開催され、2012年には5回目となる展覧会を予定している。言葉を越えた人々との交流、フランスに対する親愛の情、歴史ある街並や数々の芸術家を生んだ自然と光との出会い…。フランスの美景、母国日本と違う光と影を、10年という歳月をかけて撮りためた。

—Exposition 3—

フランス芸術活動50年を迎えるパリ在住の日本人画家によるパリ風景写真を展示

2011年6月1日(水)–6月13日(月)

足羽俊夫 フランスにおける芸術活動50年記念 写真展

—画家の眼IV パリ・ウルク運河とその周辺—

L'oeil d'un artiste-peintre autour du Canal de l'Ourcq

パリ在住の日本人画家・足羽俊夫は、1961年に渡仏、パリ国立高等美術学校で学び、日本人として初の助手を務めた。以後パリに住み、50年経った現在も意欲的に創作活動を行っている。近年は写真もその表現のひとつである。本展では「画家の眼」と題した通り、写真を媒介し芸術家の視点をそのままに伝える。

作者自身のアトリエの目の前に流れるウルク運河とその周辺を、地球の裏側で暮らすひとりの芸術家が愛する街を撮る。

会場：箱根写真美術館 2F 展示室<神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1300-432 Tel 0460-82-2717>

入館料：大人 500 円 / 小中学生 300 円 / 未就学児童無料 開館時間：10:00–17:00 ※火曜休館(祝日を除く)

http://www.hmop.com 主催：箱根写真美術館・Les Trois Temps 実行委員 後援：在日フランス大使館